

# TEGOネットだより浜田

「てご」とは、方言で「手伝う（支援する）」という意味です。

平成21年3月7日 第22号  
浜田市農林業支援センター

## はじめに

梅の花も咲き揃い、春が近づいて来ました。水稻をはじめとする農作業のスタート時期となり、多忙なことと思います。支援センターでは、スタッフの前原が一時的に浜田市産業政策課の業務を担当することになり、しばらく1名減の体制となりますが、支援センターの本来の目的である「皆さんの農業経営のお手伝い」を精一杯頑張りたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひします。  
(浜田市農林業支援センター長 齋藤 實)

## 1. 各支援チームからの話題

### 新規就農支援チーム (担当: 河内・佐々本)



急激な景気後退による雇用情勢の悪化に伴い、非正規労働者を中心に大量の離職者が発生しています。

このため、3月2日に浜田ワシントンホテルプラザで、**島根県主催の「緊急合同就職面接会」**が開かれ、当支援センターも出前就農相談としてブースを設け、7名の相談を受けました。

これまでも「新・農業人フェア」(東京都・大阪市)や「しまねふるさとフェア」(広島市)に参加してきましたが、**職として「農業」を考える方が増加している**ことを感じます。浜田市内にも多くの雇用を抱える農業経営体があり、雇用就農へのニーズの高まりに応じた情報収集や相談窓口、受入れ態勢の整備が必要となっています。

### 緊急合同就職面接会に参加しました

### 認定農業者支援チーム (担当: 前原・松井)

2月11・12日に、「いわみ地方有機野菜の会」と関係機関の職員が、**有機露地栽培の先進地である熊本県上益城郡山都町の視察**を行いました。

同町には、水稻・根菜・軟弱野菜といった幅広い品目の有機栽培を実践している「**キッチンガーデン生産者ネットワーク(以下、KG)**」という組織があり、個々の生産者が土壌分析に基づく施肥設計による土づくりを徹底されていきました。

この研修では、圃場の見学だけでなく、KGが主催する有機栽培セミナーとパネルディスカッションにも参加し、有機栽培の意義や課題について意見交換を行いました。これから新たな作型として有機露地栽培に取り組む「いわみ地方有機野菜の会」の皆さんにとって、様々な情報を吸収することのできた2日間だったことと思います。

### 有機露地栽培の先進地視察



### 集落営農組織支援チーム (担当: 塚本・森井)



### 農事組合法人伊木いき区田の取組

金城町伊木集落において活動されている**農事組合法人伊木いき区田**が設立して1年が経過し、2月22日に通常総会が開催されました。冒頭に代表理事の山本省吾さんが、「設立初年度で手探りの運営だったが、共同での活動が実を結び、無事1年を終えることができた」と法人経営の手応えを話されました。法人設立により集落内の繋がりが再確認されただけでなく、水稻では全量1等、大豆においては上位等級が87%を占めるなど、生産面においても良い結果を残すことができたのは喜ばしいことです。

平成21年度は、島根県オリジナル野菜である「あすっこ」の栽培に取り組む計画で、地域内の経済維持など幅広い活動展開を目指してい

ます。組合員一人一人が「**自分のできる範囲**」で協業に参加して集落内の農地を生かきり、集落を**守るべく奮闘する**「伊木いき区田」の取組をこれからも応援していきます。

## 2. 小松菜農家の小松原「やさか漬け」が完成!

平成21年1月に弥栄町で新規就農した小松原修さんは、「いわみ地方有機野菜の会」に所属し、施設軟弱野菜の有機栽培に取り組んでいます。

支援センターでは、小松原さんの冬場の所得対策として、国の補助事業を活用した漬物(小松菜塩漬)の開発支援を行ってきました。昨年からは県農業技術センターの指導を受けつつ試作を重ねた結果、無添加で保存料なしの「安心・安全・おいしさ」にこだわった『やさか漬け』



として2月20日に「きんさい市場黒川店」に初出荷することができました。

(冬季限定商品のため、3月末まで販売予定です)

売行きは好調で、温泉旅館や飲食施設での商談も進んでいます。今後は浜田産の塩を使った「純浜田ブランド」の漬物へのバージョンアップを検討し、使用する野菜の種類も増やしていく予定です。



## 3. 所さんの「笑ってコラえて!」で紹介されます

平成20年度より広島大学・島根県・JA・浜田市農林業支援センターでは、「農作物の消費者への高品質提供のための食品物性測定の高高度化」研究会を発足し、樹上のピオーネを傷つけることなく収穫時期(食べ頃)を判定する装置の開発を研究しています。



メロンやトマトでは既に実用化されているこの技術を金城町特産の「ネットピオーネ」(特許出願中)に反映できれば、大きな付加価値を生むものと期待されています。

この度、この研究会の主体的メンバーで、世界的権威である広島大学生物圏科学研究科の櫻井直樹教授が、所ジョージさん司会のテレビ番組「笑ってコラえて!」に出演し、果実の硬度測定について紹介されます。ぜひご覧ください。

放送日時: 3月11日(水) 午後7時~

日本テレビ系『1億人の大質問!? 笑ってコラえて!』

## 4. 「認定農業者等交流研修大会」の報告

2月25日に出雲市で「認定農業者等交流研修大会」が開催されました。前半は主催者である県担い手育成総合支援協議会と県認定農業者組織ネットワークの会長挨拶、全国農業会議所による基調報告があり、国に農業者の声を届けるためには組織化が必要であると呼び掛けられました。

続いて講演されたローソン元社長の都築富士男氏はもともと農家の出身。まず、「経営とは課題を明確化し、解決していくこと」と定義づけた上で、倒産寸前だったローソンを再建したノウハウを農業・農村の活性化に当てはめ、「消費者を知り、売れる仕組みを作る」「規模拡大、技術向上、共同作業によるコスト削減」「地産地工(地域で作って地域で加工する)」などが重要であると提言されました。

また、リーダーや経営者には 情報収集力 先見性・洞察力 意思決定力 リーダーシップ が必要であり、「イミテーション(まねる)・インフラメント(改良する)・イノベーション(革新する)」意識が不可欠であるというお話は、会場のあちこちから参加者の唸る声が聞こえるほど説得力がありました。



現在は㈱都築経営研究所の社長として活躍される都築富士男氏

当情報誌は新規就農者、認定農業者、集落営農組織と関係機関の皆様にご覧いただき、ご意見、掲載要望、または配信停止をご希望される場合は下記までご連絡ください。

発刊元 浜田市農林業支援センター

昨年未に移転しました

〒697-0024 島根県浜田市黒川町3741 (JAいわみ中央本所分館2階)

TEL: 0855-22-3500 FAX: 0855-22-3477

E-mail: n-shien@city.hamada.shimane.jp